

第二本町区（山車）

熊谷うちわ祭でもっとも古い神輿は、1891年に第二本町区の一団が東京から購入し、熊谷市まで雄牛で引いてきた背の高い山車です。購入価格は500円と伝えられています。今日の価値で豪華なスポーツカーほどの値段に相当します。この神輿は江戸時代（1603～1867年）末期に建造されたと考えられており、熊谷へ持ち込まれる以前は、東京の神田明神（神田神社）の年中行事で用いられていました。

竜、鳥、雲といったモチーフが金色のパネルに彫刻されており、その上に天之手力男神（あめのたぢからおのかみ）がいます。言い伝えによれば、岩隠れの際、天之手力男神（あめのたぢからおのかみ）が洞窟の入り口の岩を放り投げ、天照大神（あまてらす）を引きずり出したことで世界に明るさが戻ったとされています。天之手力男神（あめのたぢからおのかみ）は力の神様で、農業の守護神です。この神輿は、熊谷市の有形民俗文化財に指定されています。